第２３回相模原市行財政構造改革本部会議　会議録

日　時　令和５年８月２５日（金）午後１時３０分～午後２時３５分
会　場　第１特別会議室
出席者　市長、石井副市長、奈良副市長、大川副市長、渡邉教育長、市長公室長、総務局長、財政局長、危機管理局長、こども・若者未来局長、環境経済局長、都市建設局長、緑区長、中央区長、南区長、議会局長、教育局長、行政委員会事務局長、消防局長、区政推進課長（代）、健康福祉総務室長（代）

１　行財政構造改革プラン第２期の策定について
（１）令和４年度普通会計決算等の状況について
○　事務局より、議題について資料に基づき説明。

＜主な意見等＞
○　新型コロナウイルスの影響や市税収入が高い水準で推移したということで、単純に決算の数字だけを見ると緊張感のない形になっているというのが率直な感想である。令和３年度と４年度はそうした傾向が強まっており、平時のものは今後出てくることになるが、財政的にはこれだけ財政調整基金に積んだり、余ったお金もあることから、どのように政策に使っていくか、大きな原資となるため、緊張感をもって財政を運営していきたい。（石井副市長）

（２）第１期における取組の進捗状況及び第２期における取組の予定について
○　事務局より、議題について資料に基づき説明。

＜主な意見等＞
○　扶助費等の見直しの取組状況はどこかに記載してあるのか。（総務局長）
⇒　扶助費を始めとした社会保障施策等の見直しについては、社会保障施策等検討部会において取組を進めており、そこで取りまとめた方向性については次回示していく予定である。（財政局長）
○　その中で第１期から取り組んでいる内容も示されるという理解でよいか。（総務局長）
⇒　細かい部分は健康福祉局とも調整しながら、次回示していきたい。（財政局長）
⇒　これまで第１期から取り組んでいるものを第２期に向けて成果として明示していきたいということか。（石井副市長）
○　取組の成果はきちんと表に出していくべきと考える。（総務局長）

○　新たなまちづくり事業等の選択と集中の総括には、今取組が順調に進んでいる部分だけ記載されているが、見直すものについてもこの部分にしっかり記載しておいた方がよいのでは。例えば、幹線快速バスシステム導入推進事業はここで削除することとされているが、この結論に至った経過は第１期で何らかの検討がされたから削除したのではないか。（緑区長）
⇒　新たなまちづくり事業等の選択と集中については、計画期間中に事業を推進するもの、検討・調査を実施するもの、検討・調査を実施しないものの３つに分けられており、幹線快速バスシステム導入推進事業については、元々は検討・調査を実施しないとなっており、実施しないものはこの時点で後追いをする必要はないと考えている。（財政局長）
○　第１期で進めるものは進めると記載されている一方、第２期は見直すもの、やめるものが記載されており、そこのつながりがどうか気になる。（緑区長）
⇒　別紙１において全ての事業に係る進捗状況を記載し、総括の部分は「事業を推進する」としたものをピックアップしたものである。（財政担当部長）

○　市民局としては行財政構造改革プラン策定後から様々な議論を進めており、庁議に諮る

などパスポートセンターの進捗は図られているという認識であることから、「取組遅延」という取扱いについて検討して欲しい。（区政推進課長）

⇒　既存の公共施設等の見直しについては、「完了」、「順調に進行」、「取組遅延」の３つの括りで記載しており、第１期中に取組内容が明確になった７施設のみ記載しているものである。パスポートセンターについては、第１期中に１か所への集約化に向けた取組を実施するものとされており、第１期でできていなかった部分については「取組遅延」とせざるを得ないと考えている。表現が「取組遅延」でいいかという議論はあるかもしれないが、第１期でやれていたか、やれていなかったかというと、「取組遅延」としか書きようがないというのが事務局の考え方である。（財政局長）

○　資料上には、集約化（１か所）に向けた比較検討などの取組を実施している状況と記載されており、この資料が表に出ていく際に、検討を実施しているのにも関わらず「取組遅延」とあるのは、齟齬を感じる市民もいるのではないか。（区政推進課長）

⇒　書き方や分類について検討の余地があるかどうか預かって考えていきたい。（石井副市長）

○　第２期に向けた変更点について、前提としては第１期に定めた事業がどうだったかということだが、この間、毎年課題が生まれていく中で、当初載っていなかった事業を追加で第２期に載せていく考えはあるのか。（危機管理局長）

⇒　行財政構造改革プランから削除する事業がある中で、追加すべきものがあれば次回までに示して欲しい。（財政局長）

○　そうした視点も生かされるという認識でよいか。（危機管理局長）

⇒　削除するものがあれば追加するものもあるというのは当然だと考えるので、市長公室や財政局と調整して欲しい。（石井副市長）

（３）基準財政モデル及び目的別経費ごとの活用可能額の設定について

○　事務局より、議題について資料に基づき説明。

＜主な意見等＞

○　２０億円、２４億円などの数字が出ている以上は、その根拠は何かを財政局から説明してもらわないと、何の事業費が過大で、何が不足しているのかが分からない。そもそも基準財政需要額は何なのか市民が分かるかというと、もう少し丁寧な説明が必要ではないか。また、事業を減らすというのは何かを削るということだが、事業を始める際には近隣市や他の指定都市の状況を調査しながら進めており、そうした展開を変えていくスキームを作らないといけないと感じる。この資料が表に出ていくと、この２０億円は何なのか、２４億円は何が足りないのかなどの根拠を明確化する必要があるのではないか。（こども・若者未来局長）

⇒　民生費では扶助費の割合が一番大きいが、元々の行財政構造改革プランでも扶助費の割合が高いという言い方をしてきている。ただし、どこの部分かというのは例えば令和６年度の予算を編成する中で見て行かないと細かな部分は分からない。行財政構造改革プランの策定時から単独扶助費の割合が高いという説明をしているが、それをどのように解消していくかというところになる。見せ方としては、今当てはめてみてどの事業費が過大で、何が不足しているかというのを示せるくらいである。（財政局長）

⇒　初めて出すものなので、多くの意見があると思うが、検討していきたい。（石井副市長）

○　基準財政需要額が何を積み上げてこの金額になっているのかを知っている人がこの中でもどれだけいるのか。歪みを是正していく中で、標準となる行政サービスがそもそも何なのかというのを自ら見極めていく作業が必要なのでは。民生費が２０億円上回っているというのは、他の市に比べてどこが多いのか。土木費の２４億円についても要求ベースではその程度の金額があって、査定の結果、こうなっているとか。もう少し分析が必要ではないか。（危機管理局長）

⇒　基準財政需要額の数字については、これを作る時に指定都市の費目ごとに様々な角度で

検証しており、いずれも同じような結果になっていることから、それほど差異がある数字ではないと思っている。成果としてしか説明していないので、その辺りは市民に分かりやすいよう説明の仕方は工夫していきたい。（財政局長）

⇒　市民に説明していくに当たり、統一的な物差しには説得力があることから、基準財政需要額をベースにした。本市の財政が歪んでいるという事実を市全体で共通認識を持たないといけないことから示している。（石井副市長）

○　基準財政モデルで示されている歪みについて、他市ではあまり見られないのか。（市長）
⇒　土木費などその自治体ごとの特徴によって課題である部分や不足している部分は違うものの、それぞれの自治体で突出しているものはあるものと思われる。（石井副市長）

○　教育費も結構出ているが、本市が中山間地域を抱えているため、教育に効率という言葉を使ってはならないが、効率が悪いということが影響しているという理解でよいか。（石井副市長）
⇒　基準財政需要額は児童生徒数に見合ってどのくらいという考え方であるため、特に小学校では本市では児童２０人の学校から１，０００人規模の学校まであり、中山間地域があるというのが要因である。（教育局長）
○　児童生徒一人当たりの額が大きいということか。（市長）
⇒　そのとおりである。（教育局長）
⇒　小中学校の部分では児童生徒数のほか、学校数や学級数が基準財政需要額に関わってくる。学校の統合などで学校数が減れば基準財政需要額も減ってくる。（財政局長）

○　その辺りは議会からも問われる可能性がある。本市独自の財政需要があるのに、全国一律の物差しで測るのはどうかと。（石井副市長）
○　この資料は今後公開するのか。（市長）
⇒　情報公開請求があれば出していくが、すぐには公開しない。第１期の時も策定後に公開していた。（財政局長）

○　今まで基準財政需要額は出してこなかったのか。（市長）
⇒　それぞれの費目ごとにいくらかかっているというのは示しており、基準財政需要額自体は出していない訳ではないが、説明はしていない。議会にも初めて見る数字という風に捉えられると思われる。市民感覚からしてもこの数字は何かという感覚があると思われることから、全国一律の基準をベースにする必要がある。（石井副市長）

○　第２期の策定時にこの数字を出していくことになるのか。（市長）
⇒　策定前にパブリックコメントを募集する際に出していくことになる。ただそこで今の数字を出していくかは議論を進めて行きたい。（財政局長）

○　第２期の要素としても大きいが、新年度の予算編成においても基本的にこの考え方を導入していきたい。（石井副市長）
⇒　土木費が２４億円足りないということがよく分かった。市長にも他の指定都市と比較しても建設費が少ないことを言ってもらっており、市内の建設事業者も予算が増えることによって潤っていけるようにしていけるとよいのでは。まちづくりをしっかり進めて行きたい。（都市建設局長）

○　歪みという表現について、マイナスなイメージがあり、工夫する必要があるのでは。（環境経済局長）
⇒　これは行けるところまでこの表現で行きたいと考えている。（石井副市長）
⇒　もしこの表現を使うのであれば、職員向けには一生懸命やってきた職員が歪みのために

やってきたと思われると不本意であり、職員のやる気を削がないように違う言い方をする必要があるのでは。（こども・若者未来局長）

2　その他
特になし

以　上